

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
JAPANサッカー カレッジ	平成14年1月9日	小出 隆一	〒957-0103 北蒲原郡聖籠町大字網代浜925番地2 (電話) 0254 (32) 5357			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 国際総合 学園	昭和32年10月10日	池田 弘	〒951-8065 新潟市中央区東掘通一番町494番地3 (電話) 025 (210) 8565			
目 的	2年間の現場実習やインターンシップを通して、サッカー指導と審判の基礎を身につける。また、実際にプロの現場で学ぶことにより卒業後に即戦力となる人材を育成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
スポーツ	文化・教養 専門課程	コーチ・審判専攻 科	2年：昼	2752時間	平成23年文部科学 大臣告示第166号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1024時間	0時間	0時間	2912時間	768時間	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	20人	3人	2人	5人		
学期制度	■前期：4月12日から8月21日まで ■後期：8月23日から3月31日まで			成績評価	■成績表(有) ■A(優) B(良) C(可) D(不可) H(保留)	
長期休み	■夏季：8月1日から8月22日 ■冬季：12月12日から1月16日まで			卒業・進級条件	■要出席時間数80%以上出席 ■必要科目単位を全て取得 ■学費に未納がないこと	
生徒指導	■クラス担任制(有) ■長期欠席者への指導等の対応 保護者との連携			課外活動	■課外活動の種類 校外清掃(海岸清掃等) ■サークル活動(無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界 サッカー業界(全国) ■就職率 100% (平成27年度卒業者に関する平成28年3月末時点 の情報)			主な資格・検定	■日本サッカー協会公認C級コー チライセンス	
中途退学の現状	■中途退学者 4名 ■中退率 14.8% 平成27年4月1日在学者 27名(平成27年4月1日入学者含む) 平成28年3月31日在学者 23名(平成28年3月31日卒業生含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 個人面談・保護者との連携・スクールカウンセラーの活用					
ホームページ	URL: http://www.cupsnet.com/coach.html					

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

JAPANサッカーカレッジ コーチ・審判専攻科と(株)アルビレックス新潟が連携し、サッカー業界における優れた人材を育成することを目的とする。JAPANサッカーカレッジ コーチ・審判専攻科が(株)アルビレックス新潟と連携し、外部実習等の様々な経験を通して優秀な人材を育成することで、在籍する学生自身にとって卒業後の就職先が広がるとともに、新潟県のみならず日本全体のサッカー選手育成システムを牽引していくことができるような関係を構築する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年9月30日現在

名 前	所 属
神田 勝夫	新潟県下越地区サッカー協会理事
岡田 朝彦	株式会社アルビレックス新潟育成統括部長
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ学校長
刀根 聡	JAPANサッカーカレッジ副校長
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ教務部長
森 俊輔	JAPANサッカーカレッジ事務局長
須崎 政幸	JAPANサッカーカレッジ学科主任

(開催日時)

第1回 平成28年2月10日 16:00~17:00

第2回 平成28年9月7日 16:00~17:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

1年次：実際にサッカースクール業務に携わることで、サッカー業界における仕事のイメージを掴む。

2年次：プロコーチの指導を学び、自身の指導能力向上の一助とする。また、育成普及部との連携により優れた指導者を育成する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
企業体験実習（指導実習）実習	(株)アルビレックス新潟と連携し、外部実習等の様々な経験を通して優秀な人材を育成する。	(株)アルビレックス新潟
キッズ指導実践	年少世代への指導に必要な能力を育成するとともに、トレーニング構築、オーガナイズ設定など実際に指導実践を行い、JFA公認キッズリーダーALL取得を目指す。	(株)アルビレックス新潟

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

(株)アルビレックス新潟の推薦を受け、公益財団法人 日本サッカー協会が主催する指導者講習会に参加する。教員自身の指導能力向上を目的とするとともに講習会内容を授業や実習等で活用する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年9月30日現在

名 前	所 属
神田 勝夫	新潟県下越地区サッカー協会理事/株式会社アルビレックス新潟取締役強化部長
岡田 朝彦	株式会社アルビレックス新潟育成統括部長
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ学校長
刀根 聡	JAPANサッカーカレッジ副校長
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ教務部長
森 俊輔	JAPANサッカーカレッジ事務局長
須崎 政幸	JAPANサッカーカレッジコーチ・審判専攻科/サッカーコーチ研究科主任
竹川 昌彦	JAPANサッカーカレッジサッカービジネス科主任
小澤 江里子	JAPANサッカーカレッジトレーナー専攻科主任

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.cupsnet.com/pdf/02.pdf>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.cupsnet.com/pdf/guide07.pdf>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 コーチ・審判専攻科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			英会話Ⅰ	テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、年間を通じて学生が英語で会話することを旨とする。	1 通		2	○		
○			英会話Ⅱ	テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、学生自らがその状況に応じた英会話ができるようになることを目的とする。	2 通		2	○		
○			コミュニケーションスキル	自己紹介や挨拶等を通じ、コミュニケーションの大切さを知るとともに、基礎的なコミュニケーションスキルを習得する。	1 通		2	○		
○			就職実務	自己分析を中心に、自分自身にとって就職とは何かを考えさせ、就職に対する動機づけを行う。就職活動のマナーを知り、面接、スピーチ対策等を実施し、就職活動への準備を目的とする。	2 通		2	○		
○			プレゼンテーション	コミュニケーションスキルを向上させ、豊かな表現力を身につける。実際にプレゼンテーションを経験し、論理的な物の見方、考えのまとめ方、意見の出し方の基礎を学ぶ。	2 通		2	○		
○			NPO 経営論	総合型地域スポーツクラブなど NPO 法人として実際に活動している組織の方より、NPO 法人に関わる運営方法や活動内容等について学ぶ。	2 通		2	○		
○			クラブ経営実践論	クラブ経営・クラブ運営のノウハウなどの観点から、サッカービジネスの本質を学ぶ。	2 通		2	○		
○			NIE	新聞に触れることで読解能力を高める。NIE への取り組みを通じてディベート、プレゼンテーション能力を養い、社会人として基本的な一般常識、時事事項を身につける。	1 ・ 2 通		4	○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 コーチ・審判専攻科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			HR	集団行動の重要性を認識し、時間厳守、規律遵守、協調性、奉仕の心を養うことを目的とする。	1・2通		4	○		
○			OA I	Microsoft Excel を使用した表計算の基礎を学び、Excel 検定 3 級取得を目指す。	1通		2	○		
○			OA II	文章入力から編集の基礎を学び、一般的なビジネス文章（社外文章、社内文章、案内状など）を作成できるようにする。	2通		2	○		
○			ホームルーム	学科ホームルームの時間を利用し、学生自身が活動内容を報告・発表する。また、他の学生の活動状況を知ること、自分自身の今後の活動に活かす。	1・2通		2	○		
○			スポーツニュートリション	スポーツ選手として必要となる栄養の基礎を理解し、選手生活の中で活かせるように知識を身につける。	1通		2	○		
○			ストレングス理論	サッカー選手、指導者としての必要なストレングストレーニングの基礎理論を学び、その知識を実際のトレーニングに生かし、サッカーのパフォーマンス向上を目指す。	1通		2	○		
○			テーピング論	サッカー指導者として指導にあたる場において活用できる、テーピングやアイシングの技術と知識を学ぶ。	1通		2	○		
○			スポーツ心理	メンタルトレーニングに関する知識、技法を習得し、自分自身の競技力向上とさらには指導者として選手を心理的サポートできる能力を身につける。	2通		2	○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 コーチ・審判専攻科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			フィジカル論	サッカー選手として必要不可欠なフィジカルトレーニングについて理論的に学習し、指導現場でのトレーニングに活かすことを目的とする。	2通		2	○		
○			トレーニング科学	指導者としてスポーツトレーニングの基礎を学び、その知識を実際に指導する際に活かすことを目的とする。	2通		2	○		
○			指導論	コーチングに必要な具体的な知識やスキルを講義を通して習得する。C 級コーチ養成プログラムにおけるコーチングに必要なコーチングの考え方、方法を学ぶ。	2通		2	○		
○			幼児教育	子どもとの関わりあいから、今後期待されるであろう年少世代への指導に必要な能力を育成する。またスポーツ指導を効果的に行うために、幼児・児童の心身の発達を十分に理解することを目的とする。	2通		2			○
		○	企業体験実習（指導実習）	株式会社アルビレックス新潟と連携し、プロコーチから指導を学ぶとともに、自分自身も実際に指導にあたる。	1・2通		1 2 0			○
○			戦術理論Ⅰ	C 級コーチ実技科目の分析からサッカーの基礎となる個人戦術およびグループ戦術を学ぶ。	1通		2	○		
○			戦術理論Ⅱ	戦術理論Ⅰで学んだことを応用する。グループでの関わり、目的を遂行するための戦術を学ぶ。より深く理論を学ぶことにより、指導者あるいは審判として役立てる。	2通		2	○		
○			指導実践	1 年次は C 級コーチ養成講習会のテーマに沿って実践を行う。2 年次はグループ戦術を中心に指導実践を行う。	1・2通		16			○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 コーチ・審判専攻科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			キッズリーダー指導実践	子どもとの関わりあいから、今後期待されるであろう年少世代への指導に必要な能力を育成するとともに、トレーニング構築、オーガナイズ設定など実際に指導実践を行い、JFA 公認キッズリーダーALL 取得を目指す。	1 通		4			○
○			ゲーム分析	ゲーム分析の意図を理解し、基本的な分析方法を知る。またチームの狙い、意図を読み解く。	2 通		4	○		
○			トレーニング分析	実際に行われたトレーニングにおいて、そのトレーニング全体の構築目的、各トレーニングにおける目的、オーガナイズの意味、キーファクター、留意点など、指導者の狙いや意図を分析する。	1 通		4	○		
○			審判論	サッカー競技における競技規則の正しい解釈と適用を講義を通して学ぶ。「審判員の目標と重点項目」の内容を理解し、サッカーの魅力を最大限に引き出せる能力を身につける。	1・2 通		4	○		
○			審判実践	競技規則の正しい解釈と適用を実践を通して学ぶ。審判論の授業とリンクさせ実践を通して実際の見え方などの状況を確認する。	2 通		2			○
○			夏季トレーニング	サッカー競技における技術・戦術・メンタル・フィジカルの向上を目指す。	1・2 通		8			○
○			冬期トレーニング	サッカー競技における技術・戦術・メンタル・フィジカルの向上を目指す。	1・2 通		16			○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 コーチ・審判専攻科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			サッカー実 技	サッカー競技における技術・戦術・メンタル・フィジカルの向上を目指す。	1 ・ 2 通		24			○
○			審判実習	サッカー競技における競技規則の正しい解釈と適用を講義を通して学ぶ。「審判員の目標と重点項目」の内容を理解し、サッカーの魅力を最大限に引き出せる能力を身につける。	1 ・ 2 通		16			○
○			夏季指導実 習	実際に行われたトレーニングにおいて、そのトレーニング全体の構築目的、各トレーニングにおける目的、オーガナイズの意味、キーファクター、留意点など、指導者の狙いや意図を分析する。	1 ・ 2 通		8			○
○			冬期指導実 習	実際に行われたトレーニングにおいて、そのトレーニング全体の構築目的、各トレーニングにおける目的、オーガナイズの意味、キーファクター、留意点など、指導者の狙いや意図を分析する。	1 ・ 2 通		16			○
		○	データ分析	ゲーム分析の意図を理解し、基本的な分析方法を知る。またチームの狙い、意図を読み解く。	2 通		2	○		
合計					35 科目		4704 時間			